

読書活動推進講座

4月15日（火）15：30～

野洲図書館にて

市内校園 24名参加

野洲図書館の早田ひとし館長のご挨拶から始まり、司書の皆さんの紹介がありました。

- ・学務課兼務学校図書館担当の谷口雪子さん
- ・乳幼児・小学校担当の梅原彩花さん
- ・中学校・高校担当の大崎優美さん
- ・小学校としゃかんBOX 担当の宇都宮香子さん
- ・中学校としゃかんBOX 担当の八代恵実さん です。



最初に梅原さんが、『著作権について』お話しされました。私たちも知っているようで、詳しく分かっていないことが多い「著作権」。今回、教えていただいたことは、図書担当の先生から各校園に伝えてもらうことが大切だと感じました。

まず、「学校等の教育関係機関における複製等」において、許される場合の条件が以下のように3つあるということです。

- ①教育機関であること
- ②授業（保育）で利用すること
- ③必要な限度内であること

- ①は、文字通り学校と園はこの条件にあたります。
- ②は、「授業（保育）」というのが、キーワードです。つまり、時間割内に載っている教科等と中学校の部活動中の時間帯に限られます。家庭学習で行うような場合は、認められないということです。もち

ろん、学校・園だよりや学年・学級通信もだめになります。

③は、なかなか線引きが難しいところです。例えば、購入したドリルを忘れてきた子どもの分だけ、あるページ分だけコピーする場合は、認められることが多いですが、学級全員分とか、ページ数がやたら多かったりとか、やり直しのため同じページを複数枚コピーするなどは、認められないことが多いようです。結局、著作権を持つ出版会社に尋ねるしかありません。

また、フリー素材と銘打って、ネット上に上がっているものでも、詳細文を読まなければ、一部は有償であることが分かりにくいものがあります。訴訟になっているのは、こういうものが多いということでした。参加された先生方も「著作権は気をつけているつもりでも、知らなかったり、曖昧なまま利用していることも多いので、もう一度校園で確認したい」という感想がたくさん上がっていました。

次に、八代さんから、「野洲図書館利用案内」について話をいただきました。資料の団体貸し出し、司書の学校・学級訪問、子どもたちの図書館見学などの案内をしていただきました。校園の先生方から、貸し出しなど積極的に利用していきたいという感想が出ていました。

最後に小中学校の先生方向けに、今年度の「学校図書館運営について」谷口さんから話がありました。

特に、今年度より学校司書（高木さん）が一人配置になったので、図書担当の先生や図書ボランティアさんとの連携が読書活動の推進に大切になってきます。参加していただいた図書ボランティアさんも期待されていました。

資料冊子の「図書館利用案内」等を見ていただき、園や学校での読書活動の推進にいかしてください。



研修の様子



司書さんの紹介



著作権について



学校司書の高木さん

『教師が教える？子どもに委ねる？』⑥

『教師が教える？子どもに委ねる？』の第6弾、「グループ学習」です。
(教育雑誌『授業力&学級経営力』より)



グループ学習

どこまで教える？

安心して学べる環境、グループで学ぶゴール像・目的は教える

仲間外れ、一部の子ども顔色をうかがいながら過ごすような学級において、グループづくりなどを子どもたちに「任せる」と、主体的な学習を促すどころか別の問題が生じてきます。まずは、1人ずつが「安心して学べる環境」を整えていきます。そして、グループで学ぶゴール像・目的は、教師が示していきます。学びの道標となるゴール像が明確で、1人ではなくグループで学ぶ目的を子どもたちが理解していることが、取り組み方などを子どもたちに任せる土台になります。

どこから委ねる？

取り組み方などは任せ、活動をふりかえり次につなげる

明確なゴール像、学ぶ目的を子どもたちが理解した上で、取り組み方などは子どもたちに委ねます。当然、最初からうまくいくわけではありません。うまくいかないことも含めて、子どもたちが取り組み方などを選択し、自分たちで学びをコントロールしたことに意味があります。教師がコントロールしてはいつまでたっても子どもたちが「自律的な学習者」には育っていきません。

そして、忘れてはいけないのが、「ふりかえり」です。自分たちが選択した取り組み方などが、適切だったのかなどをふりかえることで、次の学びに循環的につながっていきます。

グループづくり

安心して学べる環境、グループで学ぶゴール像・学ぶ目的は教える

①安心して学べる環境

「3人組になりましょう」。どの教科でもよいですが、教師がこの指示を出す前に、子どもたちは動き始めていることがあります。すぐに、仲良しの子どもの腕をつかみ、「一緒になろう」とグループをつくるというのは、子どもたちにとって楽しい活動である一方で、不安な時間でもあります。学級が子どもたちにとって「安心して学べる環境」になっていない状態で、子どもたちに「グループづくり」を任せていると、主体的な学習を促すどころか、より居場所を失う時間になりかねません。

そこで、学級開きの時期などに簡単なゲームを行いながら、「安心して学べる環境づくり」を進めていきます。例えば簡単なじゃんけんゲーム。「2分間で、多くの人とじゃんけんをしてたくさん勝った人がチャンピオンです。」と指示します。子どもたちの活動の様子を見てみると、男子ばかりと行う子ども、仲良しの子どもとばかり行う子どもがいる一方で、性別関係なく声をかけている子ども、1人である子どもに声をかけている子どもなどがいます。活動後、「男子は男子、女子は女子で固まるクラス、誰とでも関わるクラス、どちらがいい？」と尋ねます。すると、「誰とでも関わるクラスがいい」と子どもたちは答えます。そこで、「そうだよね。人を選んでいたら、楽しくならないし、仲も深まらないね。さっき、1人になっている子がいたら自分から声をかけている子がいて、素敵だったな」と価値付けます。そして、再度ゲームを行います。すると、性別関係なく取り組んだり、人を選ばず声をかけたりする姿が見られます。「さっきのゲームと今のゲーム、どちらが楽しかった？」と子どもたちに問います。すると、「今のゲーム」と子どもたち。「どうして？」と理由を尋ねると、「多くの人とやったから」などの意見が出てきます。

また、どの教科でもいいのですが、4人組などの班机にすることがあります。そのときにあえて、「誰か1人だけ、感じ悪く机を離していたら周りの人はどう感じる？」と問題が起きる前に問います。すると、「避けられている気がする」などの意見が出てきます。「では、気持ちよく班での学びをスタートするには、どうしたらいい？」と尋ねると、「お願いしますなどのあいさつがあると気持ちいい」などの意見が出てきます。

このように生じてしまいそうな問題を簡単なゲームなどを通して気づかせたり、事前に教師から投げかけたりして「安心して学べる環境」を整えていきます。

「安心して学べる環境」が整ってきたら、徐々に、「グループづくり」も、ゴール像や目的などに応じて、子どもに任せていきます。

②グループで学ぶゴール像・目的

例えば、3年生の体育科「リズムダンス」の学習があります。ここでのグループは、教師が作りしました。運動能力やリーダー性を考慮して、6人グループをつくりました。そして、「グループで協力して振付などを考え、学級の人々に（4回目の授業で）披露する」というゴール像を示しました。また、「振り付けなどを考えることで、グループのみんなが納得する話し合いを学ぶ」「1人ではなく、協力することを学ぶためにグループで取り組む」など、活動の目的を提示しました。

ゴール像や目的という「活動の道標」を示すことで、「どうなったらいいのか」「何のために行うのか」などが明確になります。子どもたちが活動の意味を理解することが、その後「取り組み方」などを選択するとき、活動をふりかえるときなどにも役立ってきます。

取り組み方

取り組み方などは任せ、活動をふりかえり次につなげる

①子どもに任せる

子どもたちが学習のゴール像や目的を理解した上で、取り組み方などは任せます。山の頂（ゴール）は一つですが、登り方は（取り組み方）は多様にあります。つまり、ゴールへのアプローチは子どもたちに任せます。

子どもたちが学びをコントロールしたり、選択したりする「自律的な学習者」になっていくためには、子どもたちが学びをコントロールすることが重要です。先の体育の例で述べていくと、年度当初ということもあり候補の曲や振り付け例の動画などは、準備していました。候補の中から選択したり、アレンジしたりして、取り組んでいました。ゴール像が明確で、取り組み方は任されているため、子どもたちが自分たちで「ゴール像」に近づくためにどうすればよいか考え、動き始めます。休憩時間に子どもたちが話し合い、練習していました。教師が「もっと練習して」「お互いに見合いましょう」などと教えないでも、自分たちで練習して、他のグループと見合いアドバイスをしていました。

②トラブルも成長のチャンス

当然、教師がコントロールしているときに比べると、任せることで子どもたち同士のトラブルなどが起こることもあります。しかし、このトラブルも成長のチャンスです。例えば、ダンスの振り付けをめぐる、意見が対立する子どもがいたとします。「先生、困っています」と言いに来ることもあります。そんなとき、「譲りなさい」など教師が教えるのではなく、「この勉強の目的は何だった？納得する話し合いだったね。どうしたらお互いが納得するか、考えてみて」とここでも任せます。そうすることで、「ダンス」を通して、「協力すること」を自分たちで学びとっていきます。

③ふりかえり、次につなげる

「ふりかえり」は、とても重要な役割を担います。自分たちの学びを俯瞰的に捉え、見つめ直します。ゴール像や目的が明確になっているから、ふりかえりの視点が明確になります。ゴール像を達成できたのはどうしてか、できなかったのはどうしてかなどをふりかえます。また、子どもたちに任せられ、取り組み方を選択し、自分たちでコントロールしたことをふりかえるからこそ、意味があります。教師がコントロールした学びだと、「先生の教え方がよかった」など、他人事のふりかえりになります。自分たちがコントロールした学びだからこそ、「休憩時間に練習したことで、発表に間に合ったね」「他のグループにアドバイスをもらって練習をしたから、自信がもてたね」などのふりかえりができます。

こうしてふりかえたことは、ダンスの学習だけでなく、その後の他の教科や活動においてグループで学ぶときにも、生きて働く力としてつながっていきます。

おすすめの1冊



『教師のNG 思考 不正解から考える自分の伸ばし方』

著：土居 正博

出版社 東洋館出版社

教育に絶対的な正解はありません。しかし、避けるべき不正解はあります。子どもをしっかりと成長させられる教師になるためのカギは、正解ではなく、むしろ不正解——「NG思考」の方にあるのです。

誰もが陥ってしまう可能性のある以下の6つの『NG思考』。

①他責思考、②手段の目的化思考、③「横並び・安定・事なかれ」思考、

④極論思考、⑤無自己分析思考、⑥学校内価値過大視思考。

「NG 思考」を避けることで、子どもたちと自分なりの、そのクラスなりの正解に辿りつくことが教師の喜びなのだと著者は語ります。

『NHK for School』2025 番組・コンテンツの活用

NHK が提供する教育コンテンツ「NHK for School」は、インターネットさえつながればいつでもどこでも利用できるプラットフォームであり、幅広い教科やテーマに対応した豊富な教材がそろっています。ページ上部の「先生向け」のボタンをクリックすれば、教科や学年といったカテゴリ別の教材表示に加え、教材の授業活用など先生向けのコンテンツが表示されます。（下図参照）日々の授業で取り入れられている先生も数多くおられると思います。



はたらき方改革と学びの変革を両立させるうえでも非常に有効です。授業の教材について「自作してこそ一人前」との認識、すなわち教材の自前主義から脱却できず、経験の蓄積等の共有化が進んでいないケースが依然として数多くあるようです。教育関係者に求められているのは、かけた時間の多寡ではなく、多様化・複雑化する子どもたちの興味・関心や能力・特性に応じて子どもが学びを自己調整し、教材や方法を選択できる指導計画や学びの環境が提供できているかどうかです。そのためには限られた時間の中で、使えるものは総動員して、子どもたちの学びを保障する、そうしたマインドが必要です。

質の高い多様な動画教材を提供する「NHK for School」は、先生方の心強い味方です。デジタル学習基盤を前提とした新たな学びが展開されることが主体的・対話的で深い学びへとつながる一つの方策です。

「NHK for School」から、おすすめ番組・WEB コンテンツを紹介します。

タイトル	対象	放送時間 WEB	概要
ざわざわえんのがんぺーちゃん	幼保、小1	後期金曜午前 9:00～9:10 WEB	「自分なら、こういときどうするかな?」と考えるきっかけになります。友達同士で思ったことを言葉で伝え合うことで、多様な考えを認め合う力を育むことができる番組です。
で～きた 【特別活動】	幼保、小1	前期木曜午後 3:55～4:05 WEB	小学1年生を応援！学級活動や日常生活の役立つ「基本的な生活習慣」「健康と安全」「食育」などのテーマを取り上げ”できない”を”できる”ようにするためのコツやヒントを伝えます。
おばけの学校たんけんたん 【生活科】	幼保、小1、小2	通年火曜午前 9:00～9:10 WEB	自然や町、地域の人とのふれあいの中で、さまざまなことに「気付き」、それを振り返り、深い学びにつなげる表現活動を体験します。
Why!? プログラミング 【総合】	小中	後期月曜午後 4:05～4:15 WEB	プログラミング言語は Scratch を使用。コンピュータを使わずにプログラミング的思考を学べるコーナーや身の回りで働くプログラムを伝えるコーナーも。
ドスルコスル 【総合】	小3～6中	前期木曜午前 9:10～9:20 WEB	総合では、身の回りからの課題設定が重要です。そのために必要な情報を”地域””環境””福祉”などのテーマごとに紹介。見える現実を提示します。
いじめをノックアウト【特別活動】 【道徳】	小3～6中	通年金曜午前 9:40～9:50 WEB	いじめの定義やいじめへの関わり方を考えたり、SNS の使い方を話し合ったり、子どもたちが主体的にいじめについて考えていけるヒントを提供します。
しまった！～情報活用スキルアップ～【総合】	小4～6中	後期木曜午前 9:10～9:20 WEB	子どもたちが陥りがちな”失敗ポイント”を抽出し、解決の技を伝授。「しらべる」「まとめる」「つたえる」活動を成功させる必須の3ポイントが分かります。

これ以外にも、これまでからの継続で、理・社・国・算等の教科の番組・コンテンツもたくさんあります。一度覗いてみるのも指導や教材の幅を広げる機会になるかもしれません。